

## 書評

著者／日下部雅喜

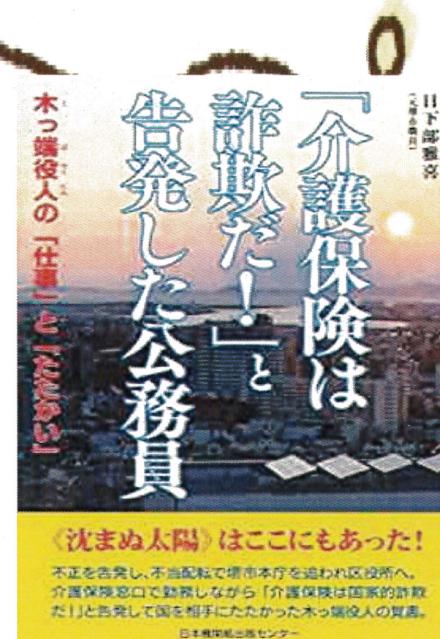
判型／四六判ソフトカバー

頁数／246

定価／本体1500円

発行／2016年10月20日

ISBN／9784889009354



筆者は大阪堺市で長く福祉の現場で勤務をした方。きょうと福祉俱楽部の学習会でも講師として何度かお招きをしました。氏は福祉大学を卒業後堺市で定年まで勤務をして現在は大阪市内の医療機関でケアマネージャーを務めています。

彼が現場で見た福祉の風景は決して綺麗なものでは無く官民一体で行われる不正など許しがたい風景がありました。ハンディを抱える人たちを食い物にしている福祉法人を自分が監査で見つけ、その不正をただそうにも行政が政治家に「忖度」して握りつぶそうとする。

こんな行政機構の中でも日下部さん個人として内部告発や訴訟で正す為に奮闘をする。その結果多くの不利益が自分に降りかかる。

それでも働く人たちやハンディを抱える人たちと歩んだ人生が克明に描かれています。

介護、福祉の現場の理不尽を労働組合作りや住民訴訟で作り上げる無償の努力に憲法の公務員は「全体の奉仕者」であるべきと実践で問いかける日下部さんの活動には頭が下がります。

その活動記をまとめ上げた書籍です。

## 早くも露呈した基準緩和型生活支援の失敗

京都新聞によると介護保険の軽度者外しによって生まれた「基準緩和型」の生活支援サービス支え合い型利用が京都市の想定する利用見込みの僅か2%だったことが報道されています。

国がもくろんだ「安上がり」な支え手作りは事実上失敗したといえます。わたしたちも、この制度変更が打ち出されたときに失敗するだろうと考えていましたが予想以上に早い失敗に驚いています。

この制度はわたしたちが暮らす乙訓の地でも始まっています。京都市同様長岡京市でも同様の制度は始まりました。

しかし、受け皿になった事業所は一ヵ所のみです。そしてこの仕事を望んで事業所に登録をした人は20数名と聞いています。身体介護ができない20数名の働き手が増えたとしても高齢者が支えられるとは思えません。

介護の質を下げ、安上がりに高齢者を支えるなんて無責任な制度設計は今のうちになくす取り組みが必要ではありませんか？



有限会社 おとくに福祉研究所  
きょうと福祉俱楽部

〒617-0824  
長岡京市天神4丁目7-12 ハイツ東台101号  
TEL 075-958-2560  
FAX 075-957-2808  
E-mail kyoto-care@club.email.ne.jp